



認定No.	第12号
件名	女化神社 親子狐の石像(おなばけじんじゃ おやこぎつねのせきぞう)
認定年月日	平成31年3月20日
所在地	龍ヶ崎市馴馬町5379 女化神社境内
所有者等	女化神社
解説	<p>龍ヶ崎市の飛地にある女化神社の境内に鎮座する、一对の石像である。稲荷神社において、狛犬の代わりに狐像が置かれているという例はまれにあるが、女化神社の狐像は同地に古くから伝わる「狐女房の伝説」をモチーフに作られ、三匹の子連れという全国的にも珍しいものとなっている。</p> <p>台座の刻印によれば、石像は明治2年(1869年)に東京深川の大黒屋藤助・岡田屋宗兵衛の両名から寄進されたものであり、また、製作者は江戸時代末期から明治期にかけて関東近郊で様々な神社の狛犬などを手掛けた東京の石工・安五郎(高橋安五郎)であることが分かり、当時から女化神社の存在や狐女房の伝説が遠方にまで知られ、信仰されていたことが窺われる。</p>
	 <p>▲子狐二匹を伴った、社殿に向かって左側の狐像</p>  <p>▲向かって右側の狐像は子狐を一匹連れている</p>